

様式1

令和3年度 学校評価表

学校教育目標		確かな学力と豊かな心をもち、たくましく生きる子供の育成										～ かしこく・やさしく・たくましく ～												
a ミッション		中学校区で取り組む『志プロジェクト』の推進					a ビジョン		学んでよかった・通わせてよかったと思っていただける学校に					尾道市立西藤小学校										
評価計画					自己評価					学校関係者評価			改善計画											
b 中期経営目標		c 短期経営目標		d 目標達成のための方策		e 評価指標		f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明			k 二次評価 イ ロ ハ			l コメント			m 改善案		
確かな学力	『志プロジェクト』の推進	かしこく	基礎・基本の 確実な定着	個に応じた指導の充実 ・間違い直しの徹底 ・実態に応じた指導の工夫		算数科の単元末テスト（知識技能）の平均点が82点を超える児童の割合		85%以上	80%		94.1	B	<ul style="list-style-type: none"> 算数科の単元末テスト（知識・技能）の平均点が82点を超えた児童の割合は、学校全体で80%であった。各学年では、達成した学年はほとんどなかったが、大きく下回っている学年はなく、学年間の差に大きく開きは見られなかった。 算数科の単元末テスト（知識・技能）の平均点が60点以下の児童の割合は、学校全体で4%であり、すべての学年が達成することができた。 			3			<ul style="list-style-type: none"> 個別学習・宿題等により成果が現れており、今後も個に応じた学習指導の充実をお願いしたい。 指導の工夫や徹底したこの取り組みで、成果もでてきてよいと思う。継続して取り組んでほしい。 ITデバイスは、動態を見るための道具になりがちなので、いろんな活用法を小学生のうちに学んでほしいと思う。 			<ul style="list-style-type: none"> 標準学力調査の結果をもとに、個の実態を分析し、つまずきに応じた指導を充実させる。 平均点が60点以下の児童を中心に60点から81点の中にある児童の状況を把握し、学力補完の参加者や教職員の人員配置を再考する。 		
		やさしく	お互いの良さを認め合い、相手や時と場に応じた生活ができる児童の育成	声が掛け合えるつながり作り ・挨拶運動 ・ありがとう・いいね箱 ・異学年交流		月毎に設定するあいさつのレベルを80%達成した児童の割合		90%	84%		93.3	B	<ul style="list-style-type: none"> あいさつのレベルを達成した児童の割合は84%であった。（全校） 倍学年ほどレベルの「ひと言そえて」の達成率に課題がある。高学年も全体的にみて達成度の低い項目ではあるが、周囲の友達を見ながら、また低学年のお手本とならながら、取り組んだ結果徐々に達成率が上がっている。 「目を合わせてあいさつをする」は、ほぼ全員達成できている。これは、相手意識を持ち取り組んだ成果だと考える。 特に高学年の挨拶に対して、来校者の方からお褒めの言葉があった。 			3			<ul style="list-style-type: none"> ありがとう・いいね箱の取組は大変よいと思う。学校でのあいさつは、一定の成果が現れているが、家庭での指導・保護者/PTA等からあいさつの取組をお願いしたらと思う。 あいさつの5段階の取組は自分がどのレベルのあいさつをしているかわかりやすいし、次の目標を立てやすくよいと思う。高学年を中心に成果が見られ、継続して取り組んでほしい。 お互いの存在を認める第1段階はあいさつだと思う。今後も、あいさつ運動に取り組め、お互いの肯定感を育んでほしいと思う。 			<ul style="list-style-type: none"> あいさつのレベル表を再考し、より具体的に取組みやすい内容にしていく。 児童の意欲向上につながる奨励方法を検討していく。 		
		たくましく	健康で たくましい 体の育成	継続的な取組による体力の向上 ・体力アップカードの活用		新体力テストの課題種目に関連した運動を体育の授業の最初に毎時間行った児童の割合（7月）		80%	100%		125.0	A	<ul style="list-style-type: none"> 体育で毎時間の準備運動に課題となる種目に関連した運動を取り入れた。 第1,2,3学年 「躍力」「長座体前屈」 第4学年 「長座体前屈」「立ち幅とび」 第5学年 「反復横とび」「立ち幅とび」 第6学年 「反復横とび」「ボール投げ」 各学年で課題となる種目に関連した運動に体育の時間で確実に取り組むことができた。 学年の実態に合った運動を模索しながら二学期以降も継続して取組を行っていく。 			3			<ul style="list-style-type: none"> 継続性は体力向上に向いていると思うので、今後取組の幅がよいと思う。 コロナ禍で大変な面もあると思うが、継続してねばり強く大変よく取り組んでいる。 コロナ禍で、各学年に具体的な目的、目標を掲げるなど、工夫しながらの体力作りに取り組んでいると思う。 			<ul style="list-style-type: none"> 「反復横とび」については、実技のみの練習だったので、動きの基本となる運動に取り組んでいく。 体育の時間だけでなく、休み時間にも運動の時間を作り、児童の運動量を確保する。 より効果の高い運動があれば全体で共有し、取り組んでいく。 		

【自己評価 評価】
A：100≧（目標達成）
B：80≧（ほぼ達成）<100
C：60≧（もう少し）<80
D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。